

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

職員8名、回収率100%

公表:令和 2 年 3 月 1 日

事業所名 児童発達支援事業所 きらり水島

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		カーテンやパーテーションで活動毎にエリアを設けており、分かりやすい。	
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		出入口・トイレ等、建物の構造上バリアフリーに至っていないエリアがある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			玩具が幼児向けのものが多く、学童の遊びを充実させる為のものを検討すべき。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		H30年度の意見はH31年度の事業計画に反映している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		事業所評価についてホームページに掲載している。	通信にて、掲載状況を伝えるとともに、各家庭に結果内容を配布する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者評価を受審した結果を基に事業計画等に反映させている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人単位、拠点単位、事業所単位で実施している。	

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		法人共通のアセスメントシートを活用し、チームで計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		年間計画に沿って実施	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			利用児に合わせて、活動内容を再検討していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		土曜日で隔週利用であることが多く、平日、休日、長期休暇ごとの設定には至っていない。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼にて、当日の流れを職員間で話し合っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		振り返りを書面にてまとめ、当日欠席の職員にも周知している。	昼礼や終礼等、タイムリーに意見交換できる時間を設けることを検討中。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本、児発管が参加し、内容周知を行っている	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○		学校訪問や電話でのやりとりはあるものの、主に保護者や連絡帳を介した情報共有が多い。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				現在、医療的ケアが必要な児の受け入れ体制が整っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		障害福祉サービス事業所への移行ケースは少ないが、他事業所への移行の際には状況表を用いて引き継いでいる。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		法人内の事業所やセンターとの連携を図っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		左記のような機会が設けられていないため、地域の資源を活用しながら活動に取り入れていくことが課題。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		利用頻度が限られている為、引継ぎ時間は十分に設け、日頃の姿を聞いたり課題について検討したりするよう努めている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		幼児期を対象としたペアトレの内容であるため、学童利用児への案内は行えていない現状。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	保護者会自体はない。	茶話会や勉強会の案内はしているが、放デイ利用保護者の参加率が低い為、開催方法を要検討。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			事業所単位でなく、拠点の事業所と合同で地域公益活動を行い、地域住民との交流を図っている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	平日に児童発達支援を利用している児に対して毎月の避難訓練を行っている。	放課後等デイサービスを利用している時間帯には実施出来ていない為、計画に盛り込んでいく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修は嘱託派遣を含め、前職員が受講。事業所で目標行動を設定し、毎月振り返ったり、目標を再設定したりしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリ事故発生後と、毎月職員会議にて振り返っている。	